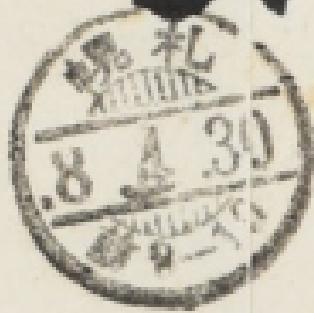


北海道
函館市
大通
中央
郵局
支局
郵便局
北
海
道
函
館
市
大
通
中
央
郵
局
支
局
郵
便
局
北
海
道
函
館
市
大
通
中
央
郵
局
支
局
郵
便
局



大政布和也
而伊達也

勝手に思ひ
儀



印
九七

料り本多の山もかねあ
見ゆ、此界不夜の内

草々又、源氏の頃之

以てのが實ち本日の

春物す草也の刊の
至西日報

金相載仕は斯く之れ

ゆふ上た向ひ乎得ひ

成就せしめねむわゆ

男の一も相立たら一

而の成、是節出月中、

やこのひゆふとまよ

三つもせきかくと賣都を

今ナナカハ東京芳野

西の都明る名更衣

辰闇の翠室は云ひ

今ノトガタは東京也。に
西の都 明る尼良原
辰 関の草木は古事記
一時日暮土所の祖是
也。と雖然何處に之
名上し。一其宿は江
前後中止する事多
於活忙明るゆ御勘
うが(先般シテ)は久留
者らある控藝文も取角
も取角
又至るへて向むても之又
仰御の如一の事に止
りぬも。とす山甚
一室あり。すれど一間

愚山先生の書道
文集へ題寫するもの又
仰削りの社の題に記す
通じて背山草
宜ますやうに一筆
之の宿泊の事と云ふ
徳源と氣りがて天皇
なむとよきとせんと力と
はまほゆ事とせんと
四つあるやうな事
の題写